

(⇒目次)

インド、中国の仏教、禪は出離的

＝やさしく他者に説かないと死んだ仏教

インド、中国、日本の(近現代の)仏教は、弱い人への慈悲的救済活動が弱い。(もちろん、少数、やさしく説いた人が、禪宗にも真宗にもいた。後に触れるかもしれない。)概して、庶民へのやさしい教育が弱い。日本人の、心の病気になっている、ある意味で苦しく弱い人に向けたマインドフルネス心理療法を開発するために、インド、中国、日本の仏教は参考になるのだろうか。

前の記事で、中村元氏(1912-1999)の言葉を見たが、禪の公案による指導法が「仏教」的ではないという批判であった。その厳しさも、後に紹介するだろう。とても寄り付けられないし、拒絶している。

今度は、念仏の浄土真宗への批判を見る。自分だけの救いに満足するのを批判している。他者の救いのためには、やさしく説かねばならない。

「浄土真宗においても、対他的なはたらきかけということは、実は信仰と表裏一体のものとなっているのである。この間の消息は、蓮如の次のことばが良く示している。

『我ればかりと思ひ、独覚心なること、あさましきことなり。信あらば、仏の御慈悲をうけとり申すうへは、わればかりと思ふことあるまじく候。触光柔軟の願候ときは、心もやはらぐべきことなり。されば、縁覚は独覚のさとりなるが故に、仏にならざるなり。』

自分には信仰がある、とあって対他的なはたらきをやめたときに、実はその人の信仰は死滅しているのである。

さて人々に真理を伝えるということが、仏教にとって本質的なものであるならば、その思想は人々にわかり易く納得のゆくものとして説かれねばならない。蓮如が当時としては平易なことばで教えを説いたのは、かかる目的のためであった。」(『慈悲』中村元、講談社学術文庫、254P)

このように、「稀代の仏教学者」中村元氏は、やさしく説かねば仏教とは言えない、慈悲がない、慈悲なければ仏教ではないという。仏教の核心は、衆生の苦の解決であった。

道元、親鸞は庶民の苦を見ていたが、昭和の頃、すでに仏教は庶民の現実の、現世の苦を救わず、変質していたという。西田幾多郎や鈴木大拙がそう批判した。時々、庶民にやさしく説いた盤珪、鈴木正三などがいたが、例外であったという。

浄土真宗には、庶民で深い安心を得た妙好人がいたので庶民でも救われたが、利他に弱いと鈴木大拙はいう。

日本人の魂のやすらぎ、鎌倉時代から明確になった日本的靈性は、厳しく責める、裁く父のような教えを求めず、やさしくさとし、できが悪くても愛で包む母のような寛大さを求めたのである。日本人は、高い境地までいかないと認めないと条件をつけて、厳しく裁く父のようなものを求めず、最初から悟りの中にいる、救われている(道元)、絶対者と一つであるとやさしく包む母のようなものを求めた。日本人で、マインドフルネスを開発するときにも、考慮したほうがよさそうである。

(続く)

インド、中国の仏教は出離的

＝日本の仏教も外部の人々の現実苦の解決支援の手法に熟練していない

- ・ (1) 西田幾多郎は仏教の現状を批判した
- ・ (2) 坐禪が仕事のような状況であった僧院での仏教は感情が渦巻くような職場、家庭でどうすればいいのかわかりにくい
- ・ (3) 昔の仏教は同じような状況が続く僧院の中で発展したので現代人のように、家庭や職場のように激しい感情が渦巻く状況は少なかった
- ・ (4) 現代人の苦の解決レベルのことを参考にできる仏教研究書は少ない

- ・ (5) 封建時代の仏教は民衆の苦の解放を説くことができなかった
- ・ (6) マインドフルネスを1年受けると病気の改善のほか人生観の変化がみられる
- ・ (7) 仏教はわかりやすいごほうびで誘って、予想しなかったごほうびを与える
- ・ (8) 元来、仏教の目的は「現実の苦」の解放だったはず
- ・ (9) 1)深い根底の「自他不二」の哲学が失われた。2)教団の外部の人の現実の苦悩を解決する活動「慈悲」の実践がなされてこなかった。
- ・ (10) 「難しい言葉を使ってわけのわからぬようなしかたで述べることは「骨董 趣味」ではあるかもしれないが、それはもはや「仏教」ではないのである。」(禪への批判＝中村元氏)
- ・ (11) 自分だけ救われて、他者にやさしく説かないと死んだ仏教。浄土真宗の蓮如上人もそう言ったと中村元氏。

タグ: [マインドフルネス](#)

【さまざまなマインドフルネスの最新記事】

- ・ [日本マインドフルライフ協会の拡大定例\(1..](#)
- ・ [日本マインドフルライフ協会の拡大定例\(9..](#)
- ・ [日本マインドフルライフ協会の拡大定例\(7..](#)
- ・ [日本マインドフルライフ協会の拡大定例\(7..](#)
- ・ [日本マインドフルライフ協会の拡大定例\(6..](#)